

# こども相談室だより

No. 18

令和元年5月発行

こんにちは。  
「こども相談室だより」第18号を発行します。  
今回は“子どもの甘えには大事な意味がある”と  
“気持ちに折り合いをつける”です。

発行元  
長野市こども未来部  
こども相談室  
TEL 026-224-7849  
相談専用 224-9746



こども相談室スタッフ紹介

こども相談室は  
0歳から18歳の子どもと保護者の  
相談を受け付ける相談窓口です。

<受付時間>

平日 午前8時30分  
～午後5時15分

☆相談専用電話を開設しました

**224-9746** (相談専用電話)

☆夜間電話相談を始めました

**毎月第2火曜日 午後5時30分～午後7時30分**

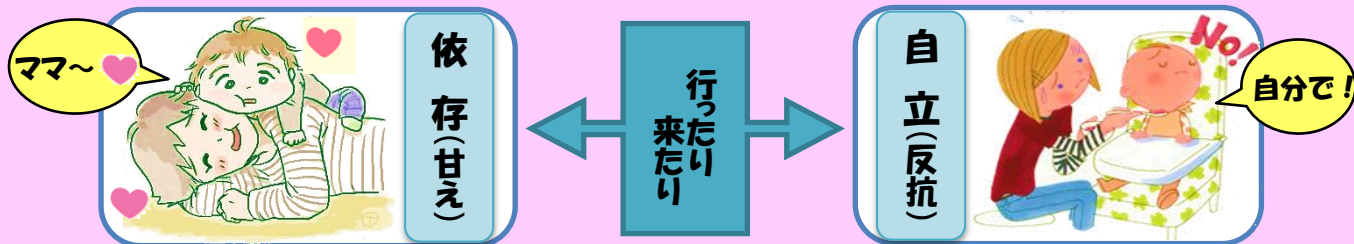
発達相談員が対応します



## 子どもの「甘え」には大事な意味がある

～ 子どもの心は「甘え」と「反抗」を行ったり来たりして大きくなる ～

3歳までの子育てで大切なことは、心の土台である自己肯定感を育てることだと言われていま  
す。その自己肯定感を育てる上で、子どもの「甘え」を受け止めることが必要です。子どもの心は、  
「甘え」と「自立」を行ったり来たりして大きくなります。「甘え」は「依存」とも言い換えられ、  
「自立」は時には「反抗」という形で出てきます。



「自立」の世界は自由ですが、同時に不安を伴います。不安を感じた子どもは「お母さーん」とま  
た「依存」の世界に戻ります。そこで十分安心感をもらおうと“自分で!”と「自立」へ戻るとい  
う繰り返しです。安心感が「自立」の土台であり、十分甘えて安心感をもらおうと「自立」するのです。

～ 「甘え」と「自立」は「子どものペース」で受け止める ～

安心感を十分もらおうと、“自分で!”という気持ちが出てきますが、まだ上手くできないので親は  
振り回されて大変です。しかし、それは心の成長のプロセスで大切なことです。2歳のイヤイヤ期  
も3歳を過ぎてくると、少しずつ落ち着いてくると言われています。大事なものは、「甘え」と「反抗」、  
「依存」と「自立」の行ったり来たりが、「子どものペース」で行われるということです。

子どもが“お母さーん”と言ってきたら、  
“よしよし”と受け止め、“自分でやる!”  
と言ったら、“やってみてね”と見守って  
いけるといいですね。



# 発達相談員のつづやき

## 気持ちに折り合いをつける

ラジオで聴いたエピソード、70代の女性からのものです。  
新しい靴をおろすたびに思い出すことがあるというものでした。

小学校入学前だったと思う。新しい靴が嬉しくて、履いたり脱いだりして眺めているうち、どうしてもその靴を履いて外に出てみたくなった。

気が付けば夕方、外はもう薄暗くなっている。おそろおそろ、私は母に(新しい靴で)「外に出てみてもいい!？」と聞いてみた。

母はちょっと困った顔をして、「もうお外は暗いから明日にしようね。」と言う。

それでもダダをこね続けていると、そんな私を母は膝にのせ

♪は～るよ来い は～やく来い 歩き始めた〇〇ちゃんが おんもに出たいと 待っているー♪  
と、私の名前を織り込んだ替え歌を歌い始めた。

私のダダこねはピークに達し、半ベソから本泣きに変わった。それとは裏腹に、母の膝に身をゆだねて母の声を聴く心地よさから、どうしても靴を履いて外に出たい気持ちが、母の膝の上でいつまでも揺られていたい気持ちに変わっていった…そんな内容だった。

当時、新しい靴を買ってもらおうという事は一大イベント!長く、大切に履くもので、直ぐに履けなくなるからという理由で、成長の速い子どもには、少し大きめの靴が買い与えられたこともあったくらいです。靴を下ろすという事には数々の決まりごとがありました。例えば、“履いて(玄関に)下りるものではない”とか、“靴底に灰をつけてから下ろす”とか…そんな中に“暗くなってから下ろすものではない”というものもあったのだと思います。止められるとますます思いは強くなる。“どうしてもダメ?” “ちょっとだけ”と食い下がるも、母は曖昧な笑みを浮かべて首を横に振るばかり。そんな情景が浮かびます。

些細なことから人生の一大事まで、思い通りにならないことやあきらめなければならないことをたくさん経験して大きくなっていく子ども達。気持ちにケリがつけられず一歩も前に進めないなんてことだって、何度も乗り越えていかななくてはなりません。そんな時、本当に助けになることはなんでしょう。ものの道理を説いてもらう事でしょうか。それとも、頭を冷やせと、距離をおいてもらうことでしょうか。出来れば、この女性のように母の膝に揺られていた時の感覚、同時によみがえる、ぬくもりや匂い…そんな記憶に支えられて切り抜けていけたら、そんな思いを強くします。

今日も、元気に遊ぶ子ども達の声が響く園庭で、

“ 1. 2. 3…9. 10. 11… ” ♪おまけのおまけの汽車ぽっぽ、ポーとなったらかわりましょ～♪  
と歌ってもらっては、泣く泣く順番を譲り合う姿が繰り広げられていることでしょう。